

プログラム番号	06070
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人 神戸大学 農学研究科		
②学長名	野上 智行		
③所在地	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	農学研究科 ・ 教務学生係長	
	担当者氏名	福島 輝幸	e-mailアドレス akyomu@ofc.kobe-u.ac.jp
	電話・FAX番号	TEL. 078-803-5928 FAX. 078-803-5932	
⑤ホームページ URL	http://www.ans.kobe-u.ac.jp/index.html		
⑥大学院在学留学生数	796人(うち、国費留学生 213人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	食の安全安心科学を学ぶ英語特別プログラム
②プログラムの形態	博士課程(一貫制) (5年間)
③実施研究科・専攻	農学研究科 生命機能科学専攻(自然科学研究科の改組により、平成19年4月設置予定)
	(所在地) 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
④連携大学・研究科・専攻名	神戸大学 農学研究科 食料共生システム学専攻、資源生命科学専攻 (自然科学研究科の改組により、平成19年4月設置予定)
⑤受入れ学生数	4人(うち研究留学生優先配置人数: 2人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 36人(うち専任: 25人、兼任: 1人、非常勤: 10人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 自然科学研究科 ・ 教授
	研究科長名 福田 秀樹

【3. プログラムの内容】

1. プログラムの趣旨・背景と目的

- **(教育目標)** 神戸大学農学研究科では、①食料生産（国際食料安全保障・食料危機など）、②環境保全（地球温暖化・森林・水資源枯渇など）、③健康生命（輸入感染症・動植物防疫など）の関連問題解決に貢献できる人材育成を教育目標としている。
- **(神戸大学の特色)** 神戸大学は、地球規模問題の解決に向けた教育研究活動を支援するとともに、世界で活躍しうる人材・研究者の育成をめざし、海外の協力拠点大学との人的交流の強化と国際的教育プログラムの推進によって、教育の世界標準化を進めている。
- **(プログラムの目的)** 本プログラムでは、次の3点を目的とする留学生英語特別プログラムを展開する。
 - ① 世界、特にアジア・アフリカ地域における「食の安心安全科学国際戦略」の諸問題解決に貢献できる指導者・研究者の育成（国際社会への知的貢献の増進）
 - ② 海外協力拠点大学との人的交流の強化とネットワーク形成（大学の国際化促進・国際競争力の強化）
 - ③ 日本人学生も含めた国際的教育プログラムの推進によるグローバルスタンダード的な国際農学教育プログラムの開発

2. 教育実績とプログラムの特色

- **(国際的背景)** 海外で生産する食料の安全性や農薬等による周辺環境問題が顕在化している。国内生産される食料の安全安心問題とともに高い関心事となっており、トレーサビリティ・HACCP等にかかわる食の安全安心科学の研究教育を国際的に推進する必要性が高い。
- **(センターの設立)** アジアを含む国内外における食の安全安心科学の理論・技術を創出する拠点として、2006年4月に「食の安全安心科学センター」を農学部附属センターとして設置した。本センターは、食資源教育研究センターと”From Farm To Table”の両翼を成し、一貫した食の安全安心科学の研究を行い、この研究成果に基づく教育を実施することを目的とする。
- **(国際連携教育の推進①)** 神戸大学農学部では、ベトナム・フィリピン・中国・韓国との国際連携教育推進プログラム「アジア農業戦略に資する国際連携教育の推進」が平成17年度戦略的国際連携支援事業として採択され、協定締結大学とともに特徴ある海外演習プログラムを実施している (<http://www.ans.kobe-u.ac.jp/international/>参照)。
- **(国際連携教育の推進②)** 関連事業としては、平成17-19年度日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「スーダンにおける食糧生産の増大と安定化を目指した水資源管理と寄生雑草の防除」が推進されている (<http://ealfor.ans.kobe-u.ac.jp/AA/>参照)。
- **(プログラムの特徴)** この「食の安全安心科学国際戦略を学ぶ英語特別プログラム」は、次のような独創的な特徴を有している。
 - ① 神戸大学および農学研究科の教育目標に合致した教育システムである。
 - ② 動植物防疫を中心とする歴史と伝統を有し、食の安全安心科学センターを中心とする先端研究成果と優秀な教育スタッフに基づく教育プログラムである。
 - ③ 英語による特別コース、JICA教育プログラムや国際連携教育プログラムなどの優れた英語教育の実績をもつ教育スタッフによって、すでに存在する優れた英語教育システムを発展改良した教育プログラムである。
 - ④ 博士前期課程においては、食の安心安全科学国際戦略の基礎知識の修得、プレゼンテーション演習、国際連携教育協定締結大学での海外演習などを中心とするインセンティブ教育プログラムを特徴とする。
 - ⑤ 博士後期課程においては、食料・環境・健康生命に関連する先端研究成果に基づく学会発表や論文発表、国内外インターンシップを取り入れた実践的国際リーダー教育プログラムを特徴とする。
 - ⑥ JICAとの連携講義および留学生と日本人学生チュータの相互協力による国際的人的ネットワーク形成を目指す教育システムである。

3. プログラムの内容

留学生は10月入学・9月（2年）修了を原則とし、早期修了も認める。日本人学生によるチュータ制度を活用し、できるだけ日本人学生との交流の機会増大を図る。

3.1 博士前期課程（修了要件：30単位以上の修得+修士論文の審査と最終試験の合格）

博士前期課程においては、食の安心安全科学国際戦略を学ぶためのインセンティブ教育を行う。具体的には、食の安心安全科学国際戦略に関連する基礎的知識、プレゼンテーション演習、国際連携教育協定締結大学での海外演習などを中心とする教育プログラムを修得する。

3.2 博士後期課程（修了要件：10単位以上の修得+博士論文の審査と最終試験の合格）

博士後期課程においては、食の安全安心科学センターを中心とする先端研究成果に基づく学会発表や論文発表、国内外インターンシップを取り入れた実践的国際リーダー教育プログラムである。

4. 使用言語：英語

